

今週のメニュー

■トピックス

◇第36回合同保安会議開催報告

■随想

◇日本はこれから何で食べていくのか？

専修大学経済学部 教授 中村 吉明

■トピックス

◇第36回合同保安会議開催報告

塩ビ工業・環境協会（VEC）では毎年、塩ビ製造工場の安全操業を目指すための情報交換を目的とした合同保安会議を開催しております。

今年は7月16日から17日にかけて広島市で開催し、VEC会員会社の7社（塩ビモノマー（VCM）製造5工場、塩ビ樹脂（PVC）製造8工場）より20名の技術者の方々にご参加いただきました。

東は茨城県鹿嶋市から西は山口県周南市まで、VCMやPVCを製造する同業他社、同社内の別工場の技術者が一堂に会し、工場保安技術の向上と技術伝承を軸として情報交換や交流を行いました。

1日目は13時に集合して開会式を行った後、VCMとPVC各2班の合計4班に分かれ、ヒヤリハット事例の報告と各事例の原因と対策について議論が交わされました。1日目の夜の懇親会では、くじによるランダムな席分けにより、昼間と違ってPVCとVCMの技術者の交流も見られました。そしてまた、2日目のグループ別討議では1日目とは異なるメンバーでのPVC2班とVCM2班に分かれ、「技術継承」と「工場保安」について事前に持ち寄ったテーマをもとに意見や情報の交換がなされました。会社や工場が違っても、現場の皆さんに共通の悩み・知見が共有されていました。



事務局の工場保安
Sub-WG 西峯主査
のご挨拶

参加者の皆さんには事前に、ヒヤリハット事例報告と、グループ別討議で話したいテーマについて「技術継承」と「工場保安」に関して何点か設定し、資料にまとめた上で会議に臨んでいただいております。

毎回、参加者全員にアンケートを回答していただくのですが、昨年は「テーマの数が少ない」と討議時間を持て余す」という意見があったの



グループ別討議の様子

に対し、今年は「テーマごとに班分けをし、1つのテーマについて深掘りをしたい」という180度異なる意見が出たことに事務局として面白さを感じるとともに、会議運営の難しさも感じました。

会議の形式は毎年同じですが、参加者と会場は毎回異なります。2回、3回と参加してくださっている方も中にはいらっしゃるものの、合同保安会議における参加者同士の再会はまずありません。会議をきっかけに他社・他工場の方との交流が始まると事務局としては嬉しいですが、この場限りだからこそ深まる議論もあるのかもしれませんが。

また、今回初めて女性が参加してくださいました。これまでは運転・技術スタッフの男性参加者が多かったですが、今後は女性や保全系の参加者がさらに増えていくことを期待しております。

7月の暑くご多忙の中、お集まりいただいた参加者の皆様に感謝いたします。

本会議が参加者の皆様にとって有意義であること、そして塩ビ業界全体の安全操業と技術の向上に寄与することを願っております。

ご安全に！

(崔)



参加者全員での記念撮影

■ 随想

◇日本はこれから何で食べていくのか？

専修大学経済学部 教授 中村 吉明

この度、はじめて寄稿することになりました中村吉明と申します。専修大学の経済学部で産業政策や自動車産業や電機産業を中心に企業の経営戦略の研究をしています。本協会に関連性のある随想を書くのは難しいかもしれませんが、よろしくお願いします。ただ、以前、経済産業省に勤務した時に環境関係の仕事をしたこともあり（小野専務理事とはPRTR関係で一緒に仕事をさせていただいたことがあります。）、今後、その関係の話題も取り上げたいと思っています。

とはいうものの、今回の話題は「日本はこれから何で食べていくのか」です。大学で教鞭を取っていると、学生に「就職先としてどのような業界、企業がいいですか？」とよく聞かれます。それはなかなか回答しづらく、「業界、企業は栄枯盛衰があるから、今、「栄」「盛」の業界、企業ではなく、君たちがそれなりの立場になる頃に「栄」「盛」となるような業界、企業を選んだ方がいいよ」というのが精いっぱいです。

そこでまず企業の栄枯盛衰を世界の時価総額ランキングでみてみます（表参照）。

バブル期真ただ中の 1989 年には、トップ 10 のうち 7 社が日本企業でした。今は合併で名前が変わっていますが銀行系 5 社と NTT と東京電力です。しかし、直近の 2026 年のトップ 10 を見ると、GAFAM などの企業が中心で日本企業は見る影もありません。日本企業は 50 位以内にかろうじてトヨタが入っているぐらいです。

時価総額ランキング比較

1989年				2025年			
順位	企業名	時価総額 (億ドル)	国名	順位	企業名	時価総額 (兆ドル)	国名
1	NTT	1,638.6	日本	1	エヌビディア	3.847	米国
2	日本興業銀行	715.9	日本	2	マイクロソフト	3.686	米国
3	住友銀行	695.9	日本	3	アップル	3.004	米国
4	富士銀行	670.8	日本	4	アマゾン	2.414	米国
5	第一勧業銀行	660.9	日本	5	アルファベット	2.171	米国
6	IBM	646.5	米国	6	サウジアラムコ	1.749	サウジアラビア
7	三菱銀行	592.7	日本	7	メタ	1.268	米国
8	エクソン	549.2	米国	8	パークシャハザウェイ	1.174	米国
9	東京電力	544.6	日本	9	ブロードコム	1.155	米国
10	ロイヤル・ダッチ・シェル	543.6	英国	10	TSMC (台湾積体電路製造)	0.945	台湾

(出典) ダイヤモンド社 [2018]等

このように企業の価値や位置づけはここ 30 年余で激変しています。そう考えると、学生に示した今、「栄」「盛」の企業はやめた方が言うのは当たらずとも遠からずと言うことになります。一方で、このように日本企業の位置づけが劣化している現状を見せつけられると、学生への就職に関する回答だけでなく、「日本はこれから何で食べていくのか」ということを、改めて真剣に考えなければならないと実感しています。

翻ってみると、高度成長期から現代に至るまで、日本は人口増による需要の拡大と先進国へのキャッチアップ戦略が功を奏し、自動車産業や電機産業を中心として雇用と付加価値を生み出してきました。これを今後も続けていくのは難しいと感じています。というのも、人口減と高齢化による日本の需給の減退に加え、今後の基盤技術となりうる AI 技術などで米中企業との力の差を見せつけられることが多くなってきているからです。では何か。確かに、従来から日本は化学、鉄鋼などの素材系企業が強く、それらは今後も日本の成長に寄与していくと確信しています。しかし、それが自動車産業や電機産業に変わる産業になるのは難しいかもしれません。

そうした中、理系学生のみならず、多くの文系学生が IT 業界に就職する例が増えてきています。AI や DX (デジタル・トランスフォーメーション) のブームを背景に、IT 関連企業が活況を呈しており、プログラマーなどの需要が高まっているからです。IT のことを全く知らない学生でも OJT で対応すれば大丈夫だと言われて多数入

社しているようです。

現在、AI 技術は米中企業に席捲されている中、その技術の進展が目覚ましく、人の手を使っていたものが、徐々に AI に取って代わられており、それが産業全体に広がっています。その結果、AI がプログラムなどを作るようになり、IT 関連の雇用者が必要なくなる時代が到来するかもしれません。

こう考えるとお先真っ暗になってしまいます。日本の産業の状況は少しずつ変わっていくので、短期的には自動車産業や電機産業や素材産業で確実に雇用と付加価値を確保するように努力していくことは言うまでもありません。その上で、中長期的には、スタートアップが日本の屋台骨を支える存在になるのを期待したいと思います。確かに、日本では優秀な人材の獲得や大量の資金調達が難しく、スタートアップが現在の自動車産業、電機産業ほどの雇用や付加価値を見出すのはいばらの道だと思います。過去を紐解くと、米国では GAFAM のようなスタートアップが急成長をして米国経済全体を支えています。日本にはそういうスタートアップが生まれませんでしたが、しかし、そうは言ってはいられません。日本が今後も食べていくためには、政府が中心となって、米国のスタートアップのように、優秀な人材が集まり、大量な資金調達が可能となるエコシステムを構築することが必要不可欠なのです。

そして学生たちに、「世界の潮流は〇〇ですから、これからは〇〇産業が日本にとって重要になります。だから君は〇〇というスタートアップで働いてはどうだろうか」と自信をもって答えられるようになりたいものです。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp